

会 議 録

会議の名称	第1回小金井市公共施設在り方検討委員会
事務局	企画財政部企画政策課
開催日時	令和6年8月26日(月) 9時50分から11時55分まで
開催場所	小金井市役所本庁舎3階 第一会議室
出席者	委員長 市古 太郎 副委員長 讃岐 亮 委員 土山 希美枝 浅野 正道 梅根 拓也 中谷 行男 村井 芳久 小西 由華 鈴木 浩司 谷越 瑞希
欠席者	
事務局	市長 白井 亨 副市長 神山 伸一 庁舎建設等担当部長 高橋 啓之 公共施設マネジメント推進担当課長 田中 克知 企画政策課企画政策係主査 郷古 陸 委託事業者 パシフィックコンサルタンツ(株)
傍聴の可否	○可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	9人
会議次第	1 開会 2 市長挨拶 3 議事 (1) 小金井市公共施設在り方検討委員会について ① 委員自己紹介及び事務局紹介 ② 委員長及び副委員長の選出について ③ 会議の運営等について (2) 公共施設の在り方・再編方針のイメージと検討の進め方について (3) 公共施設の現況と課題及び検討の論点について (4) ワークショップの概要について (5) 次回以降の開催日について

	4 その他 5 閉会
会議結果	別紙のとおり
発言内容・ 発言者名 (主な発言 要旨等)	別紙のとおり
提出資料	資料1 小金井市公共施設在り方検討委員会設置要綱 資料2 小金井市公共施設在り方検討委員会委員名簿 資料3 検討委員会の運営等について 資料4 傍聴に係る注意事項について 資料5 意見・提案シート 資料6 「公共施設の在り方・再編方針」のイメージと検討の進め方 資料7 公共施設の現況と課題及び検討の論点 資料8 ワークショップの概要について
その他	

田中公共施設マネジメント推進担当課長　　本日は、お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。それでは、第1回小金井市公共施設在り方検討委員会を開催いたします。委員長の選出まで司会進行を務めます公共施設マネジメント推進担当課長の田中と申します。よろしく願いいたします。

定足数につきましては、小金井市公共施設在り方検討委員会設置要綱第6条にて、委員の2分の1以上の出席を必要としております。本日は皆様にご出席いただいておりますので、本会議は成立していることを報告申し上げます。

では、まず配布資料の確認をさせていただきます。

机上に「次第」、「資料1 小金井市公共施設在り方検討委員会設置要綱」、「資料2 小金井市公共施設在り方検討委員会委員名簿」、「資料3 検討委員会の運営等について」、「資料4 傍聴に係る注意事項について」、「資料5 意見・提案シート」、「資料6 『公共施設の在り方・再編方針』のイメージと検討の進め方」、「資料7 公共施設の現況と課題及び検討の論点」、「資料8 ワークショップの概要について」を配布しております。過不足等がないかご確認ください。

それでは、本日市長、副市長に出席をいただいておりますので、代表して市長から挨拶をさせていただきます。

白井市長

おはようございます。本日はお忙しい中、またお暑い中、小金井市公共施設在り方検討委員会にご出席いただきましてありがとうございます。今回、委員をお引き受けくださり心より感謝申し上げます。

本市では高度成長期時代に急激な人口増加を背景として、小中学校をはじめ多くの公共施設を整備してきました。現在約7割以上の建築系の公共施設が築30年を経過しており、老朽化が顕在化するなど、今後大規模修繕や建て替えが必要となっておりますが、これらには当然ながら多額の費用が必要となります。今ある公共施設を全てこれまでどおり維持していくことは人口減少・少子高齢化が進む中、非常に難しい状況です。

公共施設の約6割を占める学校教育施設は将来においても地域の拠点、要であると考えていますが、学校現場の負担を軽減しながら地域

の子どもたちを見守り育てる環境づくり、地域の拠点としての環境づくりを進める必要があります、そのための複合化や多機能化の検討も進めていかなければならない状況となっています。

また、現在、新庁舎・(仮称)新福祉会館建設の事業を進めており、実施設計がほぼ完了した状況です。予定では12月に工事予算を議会に提出し、来年夏ころから工事が始まる予定であり、現在の本庁舎や保健センターの跡地活用も考えていく必要があります。市内の大きな公共施設の機能に動きがあることは、新たな小金井市のまちづくりが始まるとも言えます。

このように、様々な課題等がありますが、公共施設は人が出合い、つながる場所として地域の賑わいを生み出す市の貴重な財産です。公共施設をこれからの小金井市のまちづくりにどのように位置付け、どのような公共施設で市民サービスを行っていくのか、その方針を今回市として定めていきたいと考え、この検討委員会を立ち上げました。

これからの公共施設の在り方について、それぞれのお立場や専門的知見を含めて、幅広くご検討いただき、小金井市公共施設の在り方・再編方針策定のため、お力を貸していただきますようお願いさせていただきます、挨拶とさせていただきます。2年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 ありがとうございました。大変恐れ入りますが、市長、副市長は、別の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。

(市長・副市長退席)

田中公共施設マネジメント推進担当課長 それでは本日は、初めての会議でございますので、委員の皆様のご自己紹介をお願いしたいと思います。資料1の委員名簿の順でお願いいたします。

(委員自己紹介)

田中公共施設マネジメント推進担当課長 ありがとうございました。以上で委員の自己紹介を終了いたします。続きまして、事務局を担当いたします企画政策課の職員を紹介いたします。

(事務局自己紹介)

田中公共施設マネジメント推進担当課長 事務局は以上となります。よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進行させていただきます。委員長及び副委員長の選出についてです。委員長並びに副委員長の選出につきましては、小金井市公共施設在り方検討委員会設置要綱第5条の規定で委員の互選により選任することとなっております。

進行の関係上、事務局で本市の都市計画マスタープラン策定の際、委員長を務めていただいている市古委員に委員長を、多くの自治体で公共施設再編の計画策定に携わっていらっしゃる讃岐委員に副委員長を、それぞれお引き受けいただけないか、事前に打診させていただき、ご内諾をいただいております。

委員の皆様で、もしご意見等がないようでしたら、そのような形で互選を進めさせていただき、議題の進行を進めたいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

田中公共施設マネジメント推進担当課長 ご異議ありませんので、早速ですが、市古委員に委員長を、讃岐委員に副委員長をお願いし、以降の進行を委員長へお譲りいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

市古委員長 委員長を仰せつかりました東京都立大学の市古です。事務局からの紹介にもありましたが、2年前に「小金井市都市計画マスタープラン」の策定、また、現在は小金井市都市計画審議会の委員として携わっています。しかしながら、市内の学校施設や幼保・高齢者施設等まで行き届かない立場にあり、委員の皆様の様々な知見をいただければと思

います。よろしくお願いいたします。

讃岐副委員長

東京都立大学の讃岐です。都市計画を専門としています。公共施設再編をテーマに全国の自治体の委員やアドバイザーを行っています。

多くの自治体が時代要請に応じ、市民対話、ワークショップを多く取り入れています。そのアドバイザーやファシリテーターとして自治体や地域の皆さんと接する機会も多くなっています。そのような立場から意見を申し上げられればと思います。よろしくお願いいたします。

市古委員長

それでは、続きまして会議の運営等についてです。事務局の説明を求めます。

田中公共施設マネジメント推進担当課長

資料3「検討委員会の運営等について」をご覧ください。「1 会議の公開等について」、本検討委員会の会議は原則公開、対面で行わせていただければと思っております。また、傍聴については、資料4「傍聴に係る注意事項について」をご覧ください。1から6までの注意事項を記載しております。詳細は資料をご覧ください。

続いて「2 会議録の作成について」、会議録については全文記録とさせていただきます。会議録作成のため事務局にて音声を録音させていただきます。また、作成の関係で委員の皆さまには、お名前を言っていただいてからご発言いただけますよう、ご協力をお願いいたします。なお、会議録につきましては、音声データを基に会議録の案を事務局で作成し、各委員の校正後に確定させていただければと思います。なお市ホームページへの会議録の公開に当たり、ご発言者名を非公開とする場合がありますが、事務局としては公開として提案させていただきたいと考えています。公開することにより、ご発言に支障が生じるとお考えでしたら、本日の委員会の中でご決定いただければと思います。

最後に「3 意見・提案シートについて」です。資料5でお示ししております「意見・提案シート」につきましては、審議会傍聴環境の整備に関し、傍聴者の意見も積極的に反映できるようにするため、各

審議会の状況に応じて「意見・提案シート」を傍聴席に設置し、傍聴者、市民から提出できるように設置等を行わせていただくものです。

傍聴者から提出された「意見・提案シート」は、次の検討委員会にて各委員に参考資料として配布させていただくとともに、委員から審議に取り上げたいという申し出があった場合は、審議の内容等を考慮しながら、必要に応じて議題として取り上げることを考えております。

説明は以上です。

市古委員長

ありがとうございました。ご意見・ご質問等ございますか。会議録の公開について発言者の名前入りで公開するという提案が事務局よりありました。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

市古委員長

ご異議がございませんので、本検討委員会の運営等については、事務局から提案があったとお取り扱いのものとして決定します。

それでは、議事に従いまして、「公共施設の在り方・再編方針のイメージと検討の進め方について」を議題とします。事務局の説明を求めます。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 資料6『公共施設の在り方・再編方針』のイメージと検討の進め方」をご覧ください。

まず、小金井市の公共施設マネジメントに関する取り組みの経緯ですが、3ページ左側の「これまでの経緯」に記載しております。記載のとおり、本市では平成25年度に「公共施設マネジメントの構築に向けて」を策定し、公共施設マネジメントの基本的な考え方である「施設の総量抑制」、「PPPの活用」、「保有資産の有効活用」という原則を定め、その後、平成28年度に「公共施設等総合管理計画」、令和2年度に「公共施設個別施設計画」、「社会教育関係施設等個別施設計画」、「学校施設長寿命化計画」を策定しました。また、簡易劣化調査による修繕等の優先順位を整理した上で、令和3年度に「公共施設等総合管理計画」を改定しています。改定後の現在の「公共施設等総合管理

計画」は、市ホームページにも掲載されておりますので、概要のみご説明いたします。

「公共施設等総合管理計画」の構成としては、1ページ左側に記載の構成となっており、3ページ右側に記載のとおり、「小金井市基本構想・基本計画」に沿った、公共施設マネジメントの最上位計画であり、国の「インフラ長寿命化基本計画」に沿った市の行動計画となっております。

このような計画があるという前提を踏まえた上で、今回の目的でございます。現在の「公共施設等総合管理計画」は、策定の経緯や計画の性質上、どうしても既存の個別施設の維持管理や、実施中の事業の現状をベースとして策定されております。そのため、イメージとして1ページの中央、矢印部分に記載したような「公共サービスの将来ビジョン、ハコありきではない公共サービスとしての将来ビジョン（あるべき姿）、エリア（生活圏）の考え方、集約・複合化の候補や施設組合せの具体化」については、計画上これからという状況になっております。今後、「公共施設等総合管理計画」に記載されている施設類型毎の基本的な方針の検討を進め、公共施設の再編等による市民サービスの向上や、持続可能な行政サービスの展開を考えていく上で、この矢印部分の明確化が課題となります。

この課題を解決するために、今回2か年度をかけ「小金井市公共施設の在り方・再編方針」の策定に向けた検討、具体的には1ページ右側に記載の「公共施設の在り方・再編方針（構成案）」の内容を、本検討委員会を中心にご議論・ご検討いただき、矢印部分の「公共サービスの将来ビジョン」の要素をまとめることで、「公共施設の再編等による市民サービスの向上や持続可能なサービスの展開」に繋げたいというのが、今回の全体イメージとなります。

次に、2ページ「2. 検討フローと公共施設の在り方・再編方針（構成案）」をご覧ください。これからの時代に必要な公共施設の在り方、既存施設の再編についての、来年度までの主な検討内容と検討委員会、庁内検討、市民参加での検討事項、それから本検討の結果として、「公共施設の在り方・再編方針（構成案）」のどこに反映させていくか、イメージをまとめたものです。

令和6年度は、これからの公共施設の在り方について検討いただくことを想定しています。現況・課題については8～10月に検討等していきたいと考えています。本日第1回検討委員会では、検討委員会のゴール、施設の現況・課題、これからの検討の論点についてご議論いただければと思います。

庁内では、庁内組織による検討、施設所管課ヒアリング、職員ワークショップ等を段階的に行ってまいります。

市民参加については、11月以降順次開催してまいります。

これらの検討内容が「公共施設の在り方・再編方針」にどのように反映するかについては、矢印でページ右側の構成案につながる形で示しています。

11月～1月は公共施設の役割について、第2回検討委員会では、これからの公共施設に求めること、相乗効果が見込まれる公共施設の組み合わせ等について議論いただければと考えております。同時期から市民参加についてはワークショップを開催してまいります。なお市民参加について、多様な意見を方針に反映させる観点から、今年度はワークショップを計3回実施したいと考えております。詳細は後ほど、議事3(4)の「ワークショップの概要について」で説明させていただきます。

2～3月は、エリア別の公共施設の在り方についてです。第3回検討委員会では、公共施設マネジメントにおけるエリアの捉え方、各エリアにおける公共サービスの在り方、中核となる施設類型等についてご議論いただければと思います。

令和7年度は地域拠点施設を中心とした再編の在り方について主題としています。本年度の議論を踏まえ変更となる可能性等もありますが前半で地域拠点施設への集約化・複合化のシミュレーション、後半は方針のとりまとめを行うことを想定しています。説明は以上です。

市古委員長

ありがとうございました。ご意見・ご質問等ございますか。

讃岐副委員長

資料6について特に注目したいのは、1ページの公共施設の将来ビジョンの矢印の中にある文言、集約・複合化の候補や、集約化・複合

化のシミュレーション等です。公共施設の在り方を考える検討委員会ではある中で、その手段が第1回から示されているのが特徴だと思います。

そもそも公共施設マネジメントや再編を考える目的は、持続可能な財政の健全化を目指していく、持続可能なまちを目指していく手段を考えるということかと思います。その中で、唐突にも見える集約化・複合化の言葉に面くらう方もいると思います。この言葉は、手段を表す言葉であるという認識を皆さんと共有したいと思います。手段が目的となるか議論の余地があるものの、市の意思表示としては1つのやり方だと思います。

第1回の検討委員会の目的としては、検討委員会のゴールを示すことと、施設の現況と課題について考えること、これからの検討の論点を説明、共有することかと思うのですが、先ほど、私が注目した「集約化・複合化」という言葉が第2回で早速出てきます。全7回の検討委員会を通じて、集約化・複合化という手段が公共施設の再編・マネジメントを考える上で1つのやり方であり、避けて通れない、魅力的な手法であることへの理解を皆さんで共有できると、この検討委員会の意義が増すものと思います。そう考えるとワークショップや第2回検討委員会までに、市として集約化・複合化が意義のある手法であることが共有できる資料があるべきかと思いました。1回目の論点として、集約化・複合化が小金井市にとってどう魅力的なのか、どのような意義があるのか議論できると次回以降に繋がるかと思いました。感想のような発言で恐縮ですが、私から申し上げたいことはここが一番大きなところだと思います。

市古委員長

ありがとうございます。集約化・複合化について事務局として示した意図を、事務局より説明願います。

田中公共施設マネジメント推進担当課長

この後の資料7の説明において、市が置かれている現状等について説明させていただきます。その上で、他の自治体の傾向や事例等も紹介させていただきながら、集約化・複合化について市としてどのように考えているか説明させていただければと思

います。

事務局としても資料構成については悩んだところですが、全体のテーマ付けをまずは説明させていただいた方が良かったところと、このような順番とさせていただきます。

市古委員長

ありがとうございます。補足として私の方から質問させていただければと思います。

委員会の位置付けに関して、集約化・複合化に関し資料6の3ページ右上に、「各種個別施設計画」が現状あることが示されています。少なくとも、「学校施設長寿命化計画」と「公共施設個別施設計画」を横串で通せない複合化・集約化というのは見えてこないと思います。またそのような視点、考え方は既に「公共施設等総合管理計画」で論点としては共有されているところですが、さらに今年度から「公共施設の在り方・再編方針」の検討の中で、複合化等の考え方をさらに検討するという認識でよろしいでしょうか。

田中公共施設マネジメント推進担当課長

今回、2年間かけて公共施設の在り方・再編について検討をしますが、並行して教育委員会で所管しています「学校施設長寿命化計画」の改定作業が行われます。事務局としてもそことの整合が取れるよう連携を図りながら進めていきたいと考えています。ご指摘いただきました横串という意味については、こちらの検討内容についても学校施設長寿命化計画の担当課にも伝えていき整合を図っていきたいと考えています。

市古委員長

ありがとうございます。整合が取れるよう、矛盾がないようにあえて申し上げた。検討委員会の場で市民の立場から事務局に意見することで、事務局も各所管課へのヒアリングなどが進めやすくなるかと思い、発言させていただきました。

鈴木委員

我々が策定していく「公共施設の在り方・再編方針」と「公共施設等総合管理計画」との関係性について詳しく説明をお願いします。先の市の予算特別委員会の議事録を拝見したところ、担当課長から本検

討委員会で策定予定の方針は大方針になるとのご発言があったかと思
います。そうなったときにどのような関係性になるのか教えていただ
きたいです。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 1 ページに示すように、「公共施設等総合管
理計画」がまず大方針としてあります。その上で、現在の計画には、
矢印の中にある公共施設の将来ビジョンのようなものがない現状がご
ざいます。その結果、実際に公共施設の在り方の検討、再編を進めて
いく上でどのような考えを基本として持つべきか、そこを今回作って
いきたいと考えています。すなわち、既存の「公共施設等総合管理計
画」で不足している部分を補足する内容を検討していくという考えで
す。

今後、「公共施設等総合管理計画」について見直していく際には、今
回の在り方や再編方針のような考えを反映した形で見直していくもの
と考えています。既存の大方針に不足する部分をご議論いただき、次
の大方針の策定に活かしていく位置付けになるとご理解いただければ
と思います。

鈴木委員 ありがとうございます。現在ある「公共施設等総合管理計画」が
上位概念になるものと理解しました。

また、資料6の1 ページ下部に「公共施設の再編等による市民サー
ビスの向上」とあります。冒頭市長からのご挨拶でもありましたけれ
ど、今ある全ての公共施設を今までどおり維持していくことは難しい、
それは当然だと思えます。人口減少、高齢化、財政状況も厳しい中で、
公共施設の再編は避けられない視点と思っています。そうなったとき
に、再編することで市民サービスが向上していくのでしょうか。私は、
向上ではなく、時代に応じた市民サービスを提供し、維持していくこ
とが大前提になると考えていますが、この「市民サービスの向上」に
ついて深掘りしてご説明していただければと思います。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 ご意見のとおり、維持していくことが大前
提にあります。新たな施設の建設等を検討する際には、既存施設のい

くつかの機能を組み合わせることで、新たなサービスを生み出すこともあると考えています。時間帯により使いきれていない諸室の未利用な時間帯をより活用したり、別機能と合わせることで、複数機能によるサービスの質の向上が図れたり、様々な団体の交流が生まれることで活動の相乗効果等が期待できると考えています。そのような考えから市民サービスの向上とさせていただきます。

鈴木委員

よく分かりました。維持の考えが前提であり、その上で向上を図ると理解しました。最後に、資料6の2ページに「庁内検討」とありますが、庁内検討と本検討委員会はどのように連携していくかご説明をお願いできればと思います。私は、小金井市の職員は優秀で一所懸命業務に取り組んでいると思っています。そのような最前線で市政運営に携わっている職員の方々のご意見、各部、各課の声を聞かせていただきながら、検討委員会を進めていけると良いと考えています。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 庁内検討ですが、まず施設所管課にヒアリングを実施することを考えています。その結果は、間に合えば、第2回検討委員会で資料としてご提示させていただきます。

また、職員ワークショップの実施としておりますが、係長以下の職員を対象に開催させていただこうかと考えています。施設所管課の職員は所管する施設については良く理解していますが、別施設のことは理解しきれていない部分もあります。共通の場で意見交換等を行うことで、自分事として市の公共施設再編について検討してもらうため、職員ワークショップも実施いたします。こちら結果をお示し、相互のやり取りを共有しながら進めていきたいと考えています。

鈴木委員

分かりました。本検討委員会の議論が机上の空論とならず、庁内で検討された意見も踏まえ、違うベクトルに進まないようにしていく必要があると思います。

市古委員長

ありがとうございました。事務局からは、「向上」という言葉をポジティブにご提案していただきました。一方で財政的には総量抑制も大

事な考えになってきます。その他資料6について質問等はございますか。

土山委員

「公共施設等総合管理計画」で記載されていない部分を、補足するというご説明を先ほどいただきました。総論を具体的に各施設に落とし込んでいく上では、いくつかの段階があると思います。その総論と各論をつなぐ段階の1つであり、具体的には、「公共施設等総合管理計画」の第3章の内容を補足するものと理解しました。

資料6の3ページの右側の図で、平成25年度に策定された「公共施設マネジメントの構築に向けて」が、個別施設計画の上位に位置付けられており、これとの置き換えとも理解できます。「公共施設マネジメントの構築に向けて」では、基本的考え方として「総量の抑制」、「PPPの活用」、「保有資産の有効活用」とあります。もしその置き換えと捉えて良いのであれば、「公共施設マネジメントの構築に向けて」の内容が、どの程度本検討委員会での議論を制約するものなのか否か考えていたところでは。

集約化・複合化といった問題設定からみても、今検討していこうとしているものは、少しは引き継いでいるけれども、総量抑制等の考えについては説明を聞いてもやや薄いように感じます。「公共施設マネジメントの構築に向けて」の置き換えで問題ないのか。「公共施設等総合管理計画」の3章をより詳しく具体化していく話なのか、であれば「公共施設マネジメントの構築に向けて」の文章はどのように受け止めおいたら良いのかご説明いただければと思います。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 ご指摘のとおり、「公共施設マネジメントの構築に向けて」の要素と被る部分はあると認識しています。策定から年月が経過していることで、先進自治体が行っている取り組み内容等も変わってきている部分もあります。「公共施設マネジメントの構築に向けて」で既に謳われている3つの考え方を踏まえつつも、例えば民間活力の活用状況等は変わってきています。「公共施設マネジメントの構築に向けて」はあることを前提に、今後の在り方の内容についてご検討いただければと思います。

土山委員

被る部分があり、時間の経過という話もありました。であれば、「公共施設マネジメントの構築に向けて」は、これまでどのような効果があり、どのように効果がなかったのか、どのように内部で評価しているか、参考にさせていただきたく、今回でなくてもよいのでご説明いただければと思います。「公共施設マネジメントの構築に向けて」は横串を通すというものであったと思うので、本検討委員会の検討内容を横串で通すということであれば、どのようにすれば可能になるか気にしながら議論させていただければと思います。

市古委員長

ありがとうございます。委員会の方針に係る部分かと思います。

村井委員

誰がどのくらい使用しているか、情報は開示されるのでしょうか。それがないと、「新しくしたから使用される」、「統合したから予算削減ができて良かった」の話で済んでしまい、整備したものの本来使用したい人が、使用できない、使用しないのでは本末転倒かなと思います。また、平成25年度から計画が複数つくられています。それらの計画に基づいて実施したことに関するレビューというものはないのでしょうか。今までこのような課題があり、このような施策を行った、しかしこの部分の効果が出なかったと簡単にまとめられているものと、効果があった部分は継続し、効果が出なかった部分はこの検討委員会で議論できるのかと思います。

例えば、学区の切り方と児童を守る団体のサポート範囲にずれがあります。中央地区であれば緑小学校の児童は地区で分断されています。利用者の状況を盛り込んでいかないと、建物の新旧だけで判断することになり、よろしくないと思います。

田中公共施設マネジメント推進担当課長

ご指摘のとおり、事務局でも資料7の作成をする際に利用者動向を記載するか検討しました。しかし、利用率などは事業によって取り扱い方がかなり異なること、施設によって客観性のあるデータの有無等がまちまちであることから、数字をフラットに出すことで単純に利用率が低い・高いと比較することが難しいところがあります。

ただ、委員より今、ご意見いただいたことでもありますので、各施設所管課にヒアリングする中で、利用者の属性や利用傾向等整理できればお示ししたいと思います。

既存計画のレビューについてですが、既存計画は簡易劣化調査を行った上で、老朽度などからどの施設の優先順位が高いかを整理しているものであり、事業内容や利用頻度等からレビューして示すことが難しく、個別施設計画の進捗状況の整理は難しいと考えます。

一方で、各施設所管課がどのような課題を認識し、どのように優先順位で進めているかは、各施設所管課のヒアリングを踏まえ次回資料でお示しさせていただければと思います。

村井委員

今までは、経過年数や危険度から改修を行ってきた。今回の検討委員会ではそれに加えて、利用状況やサービス等、ハコだけでなくサービスの良し悪しを踏まえて検討するのか、それとも今までどおり施設の経過年数や危険度だけで判断するのか、これは今後の進め方になるかと思いますが、そこを両輪で進めていかないと難しいのかなと思います。

市古委員長

ありがとうございます。私も同感です。来年度予定している集約化・複合化のシミュレーションに関しても需要側の実態が見えていないと難しいと思います。事務局に置かれては、もう少し踏み込んだデータの整理をお願いします。

讃岐副委員長

個人的には、切り離した方が良いと考えています。定量的な評価は、専門家やそれこそ庁内の検討の中で行っていただけると良いと思います。それについて検討委員会に報告がなされた際に、検討委員会として市民目線からのフォローができると連携につながります。集約化・複合化を検討する際には現状の評価は避けられないと思いますので、確実に進めていただきたいと思います。

中谷委員

「公共施設等総合管理計画」、「公共施設マネジメントの構築に向けて」の下に、各種個別施設計画等があり、この計画は各担当部局で精査されて策定されたものであると理解しています。そこの連携が取れ

ていないと、今回の大方針を検討することで個別施設計画に少なからず影響が出ると考えます。今回の検討によって、既存の個別施設計画の変更もあると考えてよいのでしょうか。総量抑制が大前提でありつつも、集約化・複合化に特化して述べられており、当初から状況が変化していることについて事務局から説明がありましたが、各所管課との調整は必要になるだろうと感じました。

また、公共施設に関しては新たなニーズがあると感じています。既存の施設をシャッフルするという考え方だけでなく、小金井市で不足している公共施設はないか、不足しているサービスはないか拾っていく必要があると思っています。最近の事例では、コロナ禍において大規模な接種会場として対応できる場所がなく、駅前の民間施設や宮地楽器ホールを借りるなどの対応を行いました。10年に1度の対応になるかもしれませんが、公共施設マネジメントにはリスク管理も含まれると思います。各所管課の意見を聞いた上で、そのような新たな視点も加味してご検討いただきたいと思います。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 個別施設計画への影響についてですが、先ほど申し上げたとおり「学校施設長寿命化計画」については連携して検討を進めてまいります。それ以外の個別施設についても施設所管課へのヒアリングをベースに資料を提供し、ご議論いただきたいと思います。ヒアリング時には各施設の課題認識や「公共施設在り方・再編方針」への反映要望なども伺うことを想定しています。

次に、コロナ禍等の危機管理にあたって、どのような施設を使えるか、どう機能を担保していくかといったご意見と理解しました。今回の議論の中では、機能の検討もお願いしているところです。機能として民間施設を借りるのか、それとも転用可能な施設を公共施設として用意していくのか。施設所管課のヒアリング等を反映した上で、ご議論をいただければと考えています。

中谷委員

1点目については影響があるかもしれないがそこは反映することも踏まえて資料も作成していただけるとのこととありがとうございます。
2点目については、小金井市には診療所登録をしている行政施設が

貫井北町にある保健センター1箇所しかなく、コロナ禍において、医療行為を行う際に非常に苦勞されたと聞いています。現庁舎や保健センターの跡地等についてもその活用を検討すると聞いていますが、コロナの感染症は落ち着いたとはいえ、さまざまな感染症がありその都度基礎自治体が苦勞することも分かっています。もし診療所登録をしている施設がなくなるとした場合、代替のリスク管理方法も考えていくべきだと思います。

市古委員長

ありがとうございました。だんだんと意見が資料7の個別の論点に移ってきていると感じます。今の保健・福祉系施設に関しても資料がありますので、よろしければ次の議題に移らせていただければと思います。

それでは、資料7「公共施設の現状と課題及び検討の論点について」事務局の説明を求めます。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 資料7「公共施設の現況と課題及び検討の論点」をご覧ください。現在の小金井市の公共施設を取り巻く概況をまとめたものです。

1ページは、令和3年度末に改定を行いました「公共施設等総合管理計画」の内容を概要としてまとめております。小金井市の公共施設の特徴として、先ほど、市長の挨拶の中でもありましたとおり、全公共施設の延床面積の57.9%を小中学校などの学校教育施設が占めております。市民1人当たりの公共施設の延床面積は多摩地域の自治体の中では少ない自治体ですが、人口密度が高い自治体ほど市民1人当たりの延床面積は下がるという傾向があり、市の可住面積当たりの公共施設の延床面積では多摩地域では平均となっています。

公共施設の人口動向は令和12年をピークに微減が予想されており、高齢化も進行する中で、公共施設の役割や適性配置の検討が必要となっています。

財政状況については、財源に余裕がない中、施設更新費用の概算では、仮に保有している建築系公共施設125施設と土木系公共施設(道路、橋梁、下水道など)を単純更新した場合、年間約56億円の費用

が必要とされており、これは近年の市の工事請負費平均の5.8倍にあたります。市の一般会計決算額が大体500億円前後であることも考えると、総量の抑制が必要であることが明白となっております。

2ページは現在の公共施設の分布を示しております。この他に市外施設として山梨県に清里山荘がございます。また、現在、新庁舎・(仮称)新福祉会館建設が令和9年末の竣工に向けて、実施設計の最終段階となっております。地図のほぼ中央、旧蛇の目ミシン工場の跡地です。これに関連して、現在の市役所庁舎機能が移転した後の4つの跡地については、「庁舎等複合施設建設に伴う跡地等活用庁内方針」を令和5年3月に作成し、市ホームページにて公開しております。今後、実際の活用の際には個別でさらなる検討がなされるものですが、跡地又は空き施設となる現在の本庁舎、本町暫定庁舎、保健センター、貫井北町文書倉庫について、庁内の基本的な考え方を貸付、売却、公共施設として引き続き利用する等、まとめているものでございますので、後日、お目通しいただければと思います。

それと、もう1か所、東小金井北口区画整理事業地域内に、東小金井駅北口まちづくり事業用地があります。平成25年3月に市民参加を経て整備活用計画が策定されており、こちらも市ホームページに公開しています。用途地域・地区計画からは最大で約5,160㎡までの床が作れる用地ですが、計画では「東小金井の居間(リビング)」をコンセプトとした多世代交流の場、学習・図書・情報機能を軸とした多目的複合施設を、財政状況等にも配慮し、広場と公共施設が一体になった延床400㎡程度の小規模かつ簡易な公共施設として整備する計画となっております。

なお、現在は土地の取得に用いた地方債の償還をしておりますので、少なくとも、償還が完了する令和11年2月までは、起債の条件に従って総合駐車対策を推進するための駐車場運営用地として、駐車場、バイク用駐輪場に利用する予定です。

3ページから5ページは、既存の施設類型別の概況について、まとめたものとなっております。類型別の情報、基本的な方針やまとめについては「公共施設等総合管理計画」の記述により整理しておりますが、築年数は2024年現在の基準で記載しております。

次の6ページは「3. 近年の公共施設マネジメントの動向」です。公共施設の適正配置に向けた施設の集約化・複合化の推進の取り組み、「地域拠点施設への機能集約」の事例として、習志野市では公園・公民館・図書館などの集約、志木市では学校施設と公民館・図書館複合化の事例があります。次に、「将来ニーズの変化を見据えた柔軟な利用が可能な施設計画」として八王子市のスケルトン・インフィル構造の採用の事例、「公的不動産の有効活用」として、岡山市の公的不動産の定期借地権設定による有効活用の事例、最後に「官民連携事業による施設整備・運営の浸透」についてあげております。

ここまでの話を踏まえ、7ページに事務局の試案として検討委員会での論点案を示しております。

まず1つ目に「小金井市の公共施設を取巻く概況」として、「市民1人当たりの公共施設の延床面積は多摩地域の中でも、小さい水準」、「公共施設の床面積のうち57.9%が学校施設。学校施設、スポーツ・レクリエーション系施設、行政系施設、市民文化系施設の上位4用途で約80%を占める」、「公共施設の76.9%が築30年以上、約20%が築50年以上経過」、「財政状況は厳しく、支出も増加傾向」、「全施設を更新し続けるためには、近年の工事請負費の5.8倍の費用が必要」、「総人口は令和12年にピークを迎え減少傾向になる見込み。令和42年には約1/3が老年人口となる見込み」です。

2つ目に「各施設の方針を踏まえた検討課題」として、「老朽化対策の計画的な進め方の検討」、「人口構成や利用ニーズの変化を見据えた総量抑制や有効活用の検討」、「学校教育施設、市民文化系施設、社会教育系施設間の複合化や貸館機能の集約化の検討」、「これからの公共サービスの在り方の検討」、「民間事業も踏まえた必要性や在り方の検討」、「人口減少や人口構成の変化を見据えた公営住宅の必要性の検討」、「集約・複合化、廃止等により生じる跡地活用の検討」です。

3つ目に「近年の公共施設マネジメントの動向」として、「適正配置に向けた公共施設の集約化・複合化の推進」、「地域拠点施設への機能集約」、「将来ニーズの変化を見据えた柔軟な利用が可能な施設計画」、「公的不動産の有効活用」、「官民連携事業による施設整備・運営の浸透」です。

こういった現況等を踏まえた上で、資料の右側に課題とその論点の案を示させていただいています。

課題1としては「将来ニーズも踏まえた確保すべき公共サービスとは何か」です。論点としては、「市として責任をもって確保すべき（民間に委ねるべきでない）サービスとは」どういったものか、「人口減少・少子高齢化、ライフスタイルの変化等も見据えた公共サービスとして変わるべき部分・維持するべき部分とは」どういったものか、「これからの公共サービス全体としてのあるべき姿とは」どういったものか。

次に課題2として「人口動態等を踏まえた適切な配置、規模の在り方の要件とは何か」です。論点としては、「各公共サービスの利用圏域はどの程度か」、「生活圏として捉えるにあたって適切なエリアの範囲とは」どのくらいなのか、「生活圏域単位で確保するべきサービス・機能とは」、「現状、過剰と感じる公共施設もしくは不足する公共施設とは」どういったものか、「生活圏において必要な貸室の規模とは」どういったものか。

課題3としては「効果的な施設の集約化・複合化とは何か」です。論点としては「集約化を図るべき機能とは」、「複合化に適する機能の組み合わせ（メリットを最大化し、デメリットを最小化できる機能・サービスの組み合わせ）とは」どういったものが考えられるのか、「時間帯等による諸室のシェアが可能なサービスとは」どういったサービスなのか。

最後に課題4としまして「公共施設の集約・複合化による地域拠点施設とは」です。論点としては、「地域拠点施設のあるべき姿とは」、「地域拠点施設の中核（集約・複合化先）となりうる公共施設とは」どういったものなのか、「学校施設の地域拠点施設化に必要な要素とは」どういったものなのか。

ここにあげた論点案以外にも、あるかとは存じますが、次回以降の議論を進める上で、まずはこのあたりからご意見・ご検討を頂戴できればと考えております。

市古委員長

ありがとうございました。とりわけ7ページの内容、課題についてのご意見、第2回の検討委員会にむけて事務局に準備してもらいたい

資料等あればご発言いただければと思います。

小西委員

「東小金井の居間（リビング）」の計画は今も生きていのかどうかによって、今後の議論も変わってくると思うので教えていただけると嬉しいです。次回以降でもかまいませんので何か資料をいただければと思います。もう1点あるのですが、7ページの課題2の生活圏の考え方ですが、2ページの分布図を見ると一見バランス良く配置されているように見えますが、どのようにアクセスできるのかという視点が必要ではないかと思います。均等に配置されていても、移動手段がないと行くことができない。例えば、図書館緑分室の場合、近くにバス停留所もなく駐車場もありません。アクセスの方法は最寄り駅から歩くか、自転車利用に限られ、近隣の方しか利用できないのではないかと考えていますので、各エリアに均等に施設が設置されていけば良いのか疑問に思っています。アクセスの視点の情報も整理していただけるとありがたいです。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 どのような形でまとめられるか検討してみたいと思います。

市古委員長

学校施設は基本的には徒歩ですが、その他の施設に関してはどのような移動手段なのか、新しいモビリティも含めたアクセスの在り方も、是非委員会の中で提案していければと思います。

讃岐副委員長

小西委員からの発言と関連しますが、小金井市は陸の孤島のように存在している訳ではありません。小金井市の公共施設の在り方を考えるので、どうしても小金井市の公共施設だけに注目してしまいがちですが、アクセスを考えるのであれば、隣接市との関係も重要です。市民の生活を市域内だけで考え議論をする時代ではありません。近隣市とどのような関係になっているか、資料提供いただくと議論が深まると考えます。その中で小金井市の公共施設の在り方を議論することが健全な議論の在り方だと思ったので発言させていただきました。

谷越委員 7 ページに「全施設を更新し続けるためには近年の工事請負費用の 5.8 倍の費用が必要」とありますが、根拠になる資料はございますか。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 「公共施設等総合管理計画」策定時の令和 3 年度の数字となります。昨今の建築資材高騰等の要因は反映できていない数字ではありますが、計画策定時の直近に整理したデータであることをご理解いただければと思います。

讃岐副委員長 ご指摘いただいた約 56 億円、5.8 倍という数字は、私が今まで見てきた中でもかなり大きい数字です。これが良い悪いという話ではなく、今ある公共施設を全て維持していく訳にはいかないというのはここにあるわけですね、根拠資料としては。毎年このまま維持し続けるためには約 56 億円必要だが、実際かけている費用は 9.8 億円であり、実は健全に保全できていない、という事実を共有すべきだと思います。そのため総量抑制という方針を掲げていることへの理解は、皆さんと共有できると思いました。

総量抑制の方針がすなわち集約化・複合化に繋がるかは議論の余地があると思いますが、その一方で、公共施設は収入を得られないと思われがちな面に切り込むことも必要です。収入を作ることはできますし、そのような先進的な自治体も多く出てきています。

論点として、公共サービスを提供する施設で収入を得るべきか、否かという論点がないのは非常にもったいないと思います。サービスの提供には一定の費用がかかるわけで、経営の視点こそが公共施設マネジメントに必要な議論だと思います。支出を減らすだけでなく、収入にあたる部分をどうしていくか。課題 2 で「人口動態等を踏まえた適切な配置、規模の在り方」といった論点提示がされており、この「人口動態等」という部分に財政状況や経営の方針等も入ってくるのかもしれませんが、その認識でよろしいでしょうか。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 市として責任を持って確保すべきサービスと、民間に委ねることができるサービスの論点に係る話かと思います。

民間活用して行く中で、運営に関する部分も考えていく必要があるか
と思います。課題 1、課題 2 の両方に含まれる認識とご理解いただけ
ればと思います。

讃岐副委員長

この議論は、得てして減らす方向性での議論になってしまい、ワク
ワクできる議論でなくなってしまうがちです。新しいニーズに柔軟に
対応する姿勢は一定程度必要だと思います。

浅野委員

公共施設の延床面積の 57.9%が学校教育施設であり、今後、学
校施設をどのように有効活用していくのか小金井市としても大きな課
題と認識しています。資料 7 には「学校施設の地域拠点施設化に必要
な要素とは」と記載がありますが、大前提として市内小学校の教室不
足の状況があります。「学校施設長寿命化計画」では、当初小金井第三
小学校を最初に建替えを行う計画がされていましたが、それが本校、
小金井第一小学校を先に着手することに変更されました。その理由の
一つとして、小金井第三小学校は大規模校で教室不足の状況にあり、
令和 3 年から小金井第三小学校区の新入生に限り希望者は、緑小学校、
小金井第一小学校へ入学を認める制度ができました。緑町五丁目は、
小金井第一小学校の方が近く、通学路も安全であることから、緑町五
丁目の新入生のほとんどが小金井第一小学校への入学を希望するよう
な状況になりました。また、駅前に再開発マンションができてそこか
らも相当数の児童が通学しています。そのような状況もあり、小金井
第一小学校の教室が不足することとなり、計画から変更して来年 6 月
から小金井第一小学校の建替えが始まります。

担当する建築営繕課、庶務課の職員が頻繁に足を運んでくださり、
学校側の意見を聞き、市の計画も丁寧に説明していただいています。
地域拠点化ができそうな図面が書かれおり、今後の 1 つのモデルにな
ると思われるので紹介させていただきます。本校は図書館本館と隣接
していますので、校舎に中庭を作り、図書館から借りた本を中庭のベ
ンチに座って読めるような素敵な計画です。

また、学校施設が公共施設の多くの床面積を占めているということ
ですが、学校施設は教育活動だけではなく社会教育の面でも大きなニ

ーズがあります。夜間休日の体育館の利用ニーズは高く、貸出しは取り合いの状況になるほど多くの団体が利用しています。このニーズをどうしていくかも検討課題の1つだと思います。現在の設計図では体育館は残り、現在2階にあるミーティングルームも残しつつ地域で使える部屋を設ける予定となっています。

もう1つ学校施設を取り巻く環境の大きな課題として、学童保育があります。児童数が増えるに伴って、当然ながら学童に行く人数もかなり増えてきています。本校でも普通教室以外の部屋を、学童クラブに貸しています。このような状況を踏まえ検討していく際には、考えていく必要があります。武蔵小金井駅北口の再開発でマンションが建設されると、市内で最も規模の小さい本町小学校の教室が不足する可能性があります。東小金井駅周辺でもマンション建設計画があり、実現すると小金井第三小学校の児童数が増加することとなります。市の施設の問題だけでなく、民間事業者との関係もありますが、マンションが際限なく建設されることで学校の教室が不足していくのは、ここで話し合うことではないのかもしれませんが、大きな課題と考えています。

市古委員長 貴重なご意見ありがとうございます。事務局として何か補足はございますか。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 「学校施設長寿命化計画」については教育委員会の庶務課で検討しています。そちらと情報共有しながら進めていきたいと思っています。

村井委員 有事の際の避難場所について、どの場所に、どの程度の方が避難されることを想定しているのか、資料ベースでいただければと思います。避難場所として使われる公共施設があると思う。その方針があれば1つのパラメーター・検討材料となると思います。

また、小金井市では「コミュニティ・スクール」という事業があります。児童・生徒と地域の住民が子供達を見守りながら顔見知りになる。この取り組みを促進することで、安全安心なまちづくりにつなが

ります。子供会や町会活動を活発にするという意味でも、学校が軸になりそこに人が集まる。安全面等の運用を考える必要はありますが、それを軸に施設の在り方を考えていければ、そのような取り組みや活動がどのように行われているのか。こうした情報もいただけると1つの検討材料になるかと思います。

市古委員長 ありがとうございます。事務局ご対応お願いいたします。課題4に対して、重要な視点・ご意見かと思えます。

梅根委員 課題1は、「公共施設としてあるべき姿」とまで書かれており、非常に大きな論点だと思います。このような論点を検討するとするならば、抛りどころとしての考え方が必要であり、それは小金井市の公共サービスに対する考え方、市の基本構想や基本計画に該当するものと思えます。基本構想における公共サービスに係る部分だけでも、検討委員会として把握しておく必要があると考えます。次回以降論点を深めるためにも、資料を提示いただけると助かります。

市古委員長 ありがとうございます。是非その点についても事務局にてご対応お願いいたします。

鈴木委員 工事請負費用の話が出た際に、合わせて収入を作っていくことについてご意見がありましたが、とても大切な視点だと思います。収入を作っていく視点でいうと、利用者からいただく使用料・手数料などの従来の受益者負担の考えに加え、今までにない方法での施設の貸出により収入を得ることも考えていく必要があると思えます。それらに加え公共工事を行う際に国や都から補助金を引き出す視点についても入れていただければと思えます。

さらに財源の中には、起債の視点もあります。世代間の負担の公平性から当然だと思います。

このように、工事請負費を議論する際は、収入を作っていく検討をしつつ、特定財源を除いた一般財源ベースで考えるべきだと思います。

また、人口減少の中で、労働人口が減少して行くという視点は重要

だと思います。私は、市内で介護施設業を経営していますが、お客様を探す以上に、職員を確保する方が困難な時代です。公共サービスにおいても担い手となる職員が減っていく現象は、国が示す統計よりも加速度的に進んでいくことと思います。公共サービスを提供したくても提供できなくなる時代がきます。労働人口の減少に係る視点も加味しながら、議論するのが良いと思います。

市古委員長

ありがとうございます。様々な形での収入源に関する工夫についての言及も必要というご意見でした。受益者負担だけではなく、外部資金の調達については重要な視点と思います。

土山委員

人口動態について、これまでの動きと小金井市内における民間再開発の動きがあり得る環境の中で推計するのは、流動的な要素が大きい。市内の好立地にマンションが建設されると、市内でも人口移動が生じることもあります。難しい部分でもありますが、そのような示唆できるものがあれば、あるいは再開発に対しどのような規制をする考えがあるか否か等は把握しておくべき必要があると感じました。

学校施設についても、多くの床面積を占める一方で、年少人口の割合が比較的多い地域に意外と学校がないほか、市民一人当たりの延床面積が多摩地域内で少なめということから、公共施設が貴重な公共資産であるということかと思えますし、それをどのように位置付けていくのか、議論の参考になるものがあればと思います。とりわけ再開発可能な利便性の高い地域の動態に関して、情報があればよいと思いました。

市古委員長

そうですね。ありがとうございます。

中谷委員

人口比率のなかで、労働人口が減少していることは把握しています。そのような年齢特性もあるが、福祉を必要とする人が増えているか否か、高齢者という括りだけでなく介護が必要な人の推移等、これからのニーズを考える際の特性などの資料があると参考になると思います。身体障がい者数に大きな変化はなく減少傾向にある中、知的障がい者・

させていきたいと考えております。

市古委員長

ありがとうございます。ワークショップの進め方について、募集の仕方やテーマについて何かご意見等ありましたらお願いします。市全域から参加者を募るわけですが、生活圈ごとに議論をまとめておいた方が良いなどアイデアをいただければと思います。

讃岐副委員長

ワークショップのやり方には答えはないので、その時々で試行錯誤があるわけです。だから私の発言が正解ではないかもしれませんが発言します。このような検討委員会のような場であれば、ある程度市の考えに対して理解をもった上で冷静に議論ができるのですが、一方で地域によっては、公共施設再編となると、やはり減らされるのではないかと負の感情で参加せざるをえない状況も想定されます。その時に1回目で、そもそも公共サービスとは何だろうといった柔らかいテーマ設定で始めるのは良いと思う一方で、どうしても集約化・複合化がでてくると、この集約・複合化の理解度でワークショップの進行がかなり変わると思います。だとすれば集約化・複合化という手段の選択については経営判断であると捉えて、公共サービスの在り方や、公共サービスを提供する空間の在り方などに話題を留めておくなど、議論の領域の絞り方として全てを網羅するのもしないのかという選択肢は残るかと思います。検討委員会との兼ね合いを考えると理解はできますが、集約化・複合化の示し方に関しては、どのような参加者かによってやり方は丁寧に検討する必要があると思いました。

浅野委員

小学校の社会科の教材開発等も行っていますが、参考までに下北沢地区上部利用計画に係る事例として世田谷区の代沢上部地区の開発について紹介させていただきます。小田急線の下北沢駅の地下化によりできた上部空間の活用にあたって、住民参加型で整備を行った事例です。相当な数のワークショップを行い、市民意見を拾いその結果が反映された活用がされています。芝生空間や公園、市民農園、犬の散歩が可能な空間、素敵な店舗の配置がされ、素敵な街並みができている。調べたところ、ワークショップでこうした利用がしたい、こうした街

にしたいという区民意見を参考にした結果、学生・地域住民等多くの人が実際に利用しています。そのようなやり方を参考にいただき、ネガティブでなくポジティブな意見のでのる参加型の場にしてもらえると思います。

市古委員長 ありがとうございます。そういった民間企業等とも可能であれば連携していただけると良いと思います。

小西委員 ワークショップの第2回の流れについて、複合化を大前提として構成されているように思うのですが、市民にとっては、それぞれの機能が充実していれば良いといった意見が出てくるのかと思います。集約化・複合化を求めているという可能性も考えられますので、現実的に市の財政状況と踏まえて、このような制約の中で考えてほしいと一定程度示していただけると良いかと思います。

また、ある程度、集約化・複合化の答えは決まってくるかと思えます。自由に市民に議論いただき、我々が参考にできるテーマは何なのか、検討していただけるとありがたいと思います。個人的にはどのエリアにどのような施設があると良いか、といった話の方が参考になるかと思えます。

市古委員長 ありがとうございます。ワークショップのプログラムも良い意見を引き出すような工夫をお願いします。

村井委員 このワークショップの時期は確定なのでしょう。我々がある程度仮説を立てて、検証する場として市民意見をもらう方が形になりやすいと思います。検討委員会として方針を固めた上で、ワークショップで揉んでもらいフィードバックする。それで第2回ワークショップに臨んでいただく方が対話型で進められるような気がします。一つの案として申し上げておきます。

市古委員長 ありがとうございます。同感です。本検討委員会とワークショップの相乗効果が発揮できるプログラムを検討いただきたいと思います。

皆さま貴重なご意見ありがとうございました。それでは以上で、この議題については終了とさせていただきます。

それでは、次に議題（５）次回以降の開催についてご説明願います。

田中公共施設マネジメント推進担当課長　　令和６年度につきましては、本日の第１回の検討委員会を含めまして３回行いたいと考えております。会議室の空き状況等から第２回の候補日ですが、第２回は１０月２８日（月）、１１月１１日（月）、１１月２５日（月）の３日間を候補日としております。

開催時間は午前９時３０分～１１時３０分、又は夕方１８時～２０時で、皆様のご都合の良いところと考えておりますが、市民ワークショップや庁内ヒアリング等の経過を一定お示しすることを考えますと、事務局としては１１月に入った後の日程の方が、資料をご用意しやすいところではございます。

市古委員長　　皆様のご都合いかがでしょうか。それでは、１１月２５日（月）９時３０分から開催することとします。

その他について事務局よりございますか。

田中公共施設マネジメント推進担当課長　　今後の会議資料については、事前資料はメールにて電子データをお送りし、当日紙資料を配布する形で行わせていただければと思います。よろしく願いいたします。

市古委員長　　以上をもって本日の議事は終了とし、閉会といたします。皆様ありがとうございました。

（午前１１時５５分閉会）